

2014 秋の教育普及プログラム 実技講座  
「風景を描く～湘南と武蔵野～」の様子

今回実施した講座は、当館のある茅ヶ崎から、企画展「明治を歩く―湘南と武蔵野」の出品作品を所蔵する府中市美術館のある府中へ、各回場所を移動しながらおこないました。海岸に向かう途中に見られる松林、武蔵野の雑木林の落葉樹と、それぞれの地における木々や景色の変化を感じながら歩き、講師である原良介さんの指導により、①紙に鉛筆などの下書きなし、②マゼンダ・シアン・イエローの3原色と白色を足した4本の絵の具のみ使用、③自分のなかで感じた風景を自分の色で描く、という3点を軸に普段の風景画制作とはちょっと変わった体験をしていただきました。  
(美術館 S.T)

- 実施日 平成26年9月21日(日)、28日(日)、10月12日(日) 13:00～16:00(全3回)
- 講師 原良介(美術家) ●対象 小学生以上 ●参加者 12名

第1回(9月21日) 導入・茅ヶ崎市美術館周辺を描く



1 4色だけを使ったカラーチャート



2 見て感じた景色を頭に記憶し



3 4色のみ混ぜあわせた独自の色感で

第1回は、美術館のアトリエにて技法説明からスタートしました。まずは4色だけを使ったカラーチャートの作成。スケッチブックにマス目をつくり、隣の色どうしを混ぜ合わせながら画面を埋めていくことにより、少ない絵の具からたくさんの色のバリエーションができることが理解ができました。次は実際に風景を描くことに。まず何も持たずにアトリエの裏庭へ出て、各々見て感じた景色を頭に記憶し、部屋に戻って画面に写し込みます。もちろん絵の具は4色のみ、色を混ぜあわせた独自の色感で風景を描きました。

第2回(9月28日) 茅ヶ崎の風景を描く



4 茅ヶ崎館



5 茅ヶ崎館の庭から



6 海岸

2回目は、茅ヶ崎ならではの風景を探すべく美術館から海まで歩き、途中、海に程近い老舗旅館「茅ヶ崎館」へ立ち寄りました。趣きのある旅館の広間にて、まずはここまで歩いてきた道のりの目に留めた風景と、この広間の前に広がる松の木の美しい庭園を描きました。数枚絵が完成したあと、いよいよ海へ。この日は少し風が強かったこともあり、その場で描くには少々大変でしたが、皆さん集中して画面に向かっていました。その後、美術館に戻り、開催中の展覧会「明治を歩く―湘南と武蔵野」に出品の萬鐵五郎作「題不明《海岸へと続く松林》」を鑑賞。本講座の内容に合った作品と語る講師のレクチャーを交え、より風景画の描き方の知識を深めました。

2014 秋の教育普及プログラム 実技講座  
「風景を描く～湘南と武蔵野～」の様子

- 実施日 平成 26 年 9 月 21 日 (日)、28 日 (日)、10 月 12 日 (日) 13:00～16:00 (全 3 回)
- 講師 原 良介 (美術家) ● 対象 小学生以上 ● 参加者 12 名

第 3 回 (10 月 12 日) 府中の風景を描く  
(東京都府中市：府中市郷土の森博物館→多摩川)



7 府中市郷土の森博物館



8 作品発表



9 多摩川で最後のスケッチ

最終回は「武蔵野」の面影を求めて府中へ遠征しました。お昼過ぎに府中市郷土の森博物館に集合。この博物館は復元された建築物が多数ある他、全国の県木園や地元府中の森を紹介する野外博物館として市民の皆さんに親しまれています。まず入口にてこの日の制作ポイントの説明を伺い、広大な敷地の中へ。その場で写生する人もいれば、集合場所である会議室で描く方も。完成後はこれまで描いた作品を一人ずつ発表。「こういう思いで描きました」「この景色が気に入って…」などいろいろな感想を聞くことができました。博物館を後にし、その近くを流れる多摩川へ移動。夕日に照らされた川を眺め、最後のスケッチをおこない、そこで講座は終了しました。

● 講師プロフィール

原 良介 (美術家)

1975 年神奈川県生まれ。2000 年多摩美術大学美術学部絵画学科卒業、2002 年多摩美術大学大学院美術研究科修了。近年開催した主な個展に「project N 36 原良介」東京オペラシティアートギャラリー (09 年)、「原良介」Yuka Sasa hara Gallery (11 年)、「原良介—天然」ゲルオルタナ (14 年)、茅ヶ崎市美術館では 2012 年に「原良介—絵画への小径—」を開催した。「トーキョーワンダーウォール公募 2001」大賞受賞。2013 年より多摩美術大学美術学部絵画科非常勤講師。

スタッフ あとがき

講座全体を通して、参加者の皆さんは初めこの独特な描き方に少し戸惑いも見うけられましたが、徐々に慣れていき、最後はとてもおもしろかったという感想もありました。見たままの景色だけを写し取るのではなく、自分自身のその時の感情や想像したものを画面に表現するという今回の技法を、今後の作品制作にも活かしていただければと思います。